別表第二十一号　使用する周波数帯幅（第26条第１項関係）

（6000／14×ｎ＋38.48）kHzを小数点以下切り上げた値

ただし、ｎは第28条第２項のＯＦＤＭフレームに含まれるＯＦＤＭセグメントの数。

別表第二十二号　ＩＰパケットの構成（第27条第１項第２号関係）

１　IPv４パケット

IPv４ヘッダ部	ＵＤＰヘッダ部	データ部
64ビット		８×Ｎビット

注１　IPv４ヘッダ部及びＵＤＰヘッダ部は、IPv４パケットの種類の識別のために使用する。

２　データ部は、データ伝送のために使用する。

３　Ｎは正の整数を示す。

２　IPv６パケット

IPv６ヘッダ部	ＵＤＰヘッダ部	データ部
64ビット		８×Ｎビット

注１　IPv６ヘッダ部及びＵＤＰヘッダ部は、IPv６パケットの種類の識別のために使用する。

２　データ部は、データ伝送のために使用する。

３　Ｎは正の整数を示す。

別表第二十三号　ＵＬＥパケットの構成（第27条第１項第３号関係）

ヘッダ部	データ部	ＣＲＣ
	32ビット	

注１　ヘッダ部は、ＵＬＥパケットの種類の識別のために使用する。

２　データ部は、データ伝送のために使用する。

３　ＣＲＣは、データの誤り検出のための符号とする。

別表第二十四号　搬送波を変調する信号を求める方程式（第28条第１項関係）

$$s(t)=\mathrm{Re}\left\{e^{j\cdot 2\pi\cdot f_c\cdot t}\cdot\sum_{n=0}^{\infty}\sum_{b=0}^{S_1+S_{13}-1}e^{-j\cdot(\phi(b)\cdot n+\theta(b))}\sum_{k=0}^{N(b)-1}c(b,n,k)\cdot\Psi(b,n,k,t)\right\}$$

ここで

$$\Psi(b,n,k,t)=\begin{cases}e^{j\cdot 2\pi\cdot\frac{\left(\sum_{i=0}^{b}N(i)-N(b)+k\right)-K_{fc}}{T_u}\cdot(t-T_g-n\cdot T_s)} & n\cdot T_s\leq t<(n+1)\cdot T_s\\ 0 & \text{その他の}t\end{cases}$$

$$\phi(b)=-2\pi\cdot\frac{T_g}{T_u}\left(\left(\sum_{i=0}^{b}N(i)-N(b)+k_c(b)\right)-k_{fc}\right)$$

$$\theta(b)=\begin{cases}\pi\sum_{i=1}^{b}(W_{0,i}\oplus W_{N(i-1),(i-1)}) & b>0\\ 0 & b=0\end{cases}$$

$s(t)$　：ＲＦ信号

f_c　：送信波に含まれるいずれかのＯＦＤＭセグメントの中央の周波数

n　：シンボル番号

S_1　：１セグメント形式のＯＦＤＭフレームの数

S_{13}　：13セグメント形式のＯＦＤＭフレームの数

b　：１セグメント形式及び13セグメント形式のＯＦＤＭフレームの番号（周波数軸上左端のＯＦＤＭフレームを０とする）

$N(b)$　：ＯＦＤＭフレームｂのキャリア総数

（ただし、$b\neq S_1+S_{13}-1$であるＯＦＤＭフレームについては、

１セグメント形式の場合、モード１：108、モード２：216、モード３：432、

13セグメント形式の場合、モード１：1404、モード２：2808、モード３：5616、

$b=S_1+S_{13}-1$であるＯＦＤＭフレームについては、送信波全体の周波数軸上右端にあるＣＰを含めて

１セグメント形式の場合、モード１：109、モード２：217、モード３：433、

13セグメント形式の場合、モード１：1405、モード２：2809、モード３：5617）

k　：ＯＦＤＭフレームごとのキャリア番号（周波数軸上左端のキャリア番号を０とする）

$c(b,n,k)$　：ＯＦＤＭフレームｂ、シンボル番号ｎ、キャリア番号ｋに対応する複素信号点ベクトル

T_u　：有効シンボル期間長

T_g　：ガードインターバル期間長

（ただし、$b\neq S_1+S_{13}-1$であるＯＦＤＭフレームについては、

１セグメント形式の場合、$T_u=7N(b)/3\times10^{-5}$、

13セグメント形式の場合、$T_u=7N(b)/39\times10^{-5}$、

$b=S_1+S_{13}-1$であるＯＦＤＭフレームについては、

１セグメント形式の場合、$T_u=7(N(b)-1)/3\times10^{-5}$、

13セグメント形式の場合、$T_u=7(N(b)-1)/39\times10^{-5}$）

T_s　：シンボル期間長（$T_s=T_u+T_g$）

$K_c(b)$　：ＯＦＤＭフレームｂの中央の周波数に対応するキャリア番号

（１セグメント形式の場合、モード１：54、モード２：108、モード３：216、

13セグメント形式の場合、モード１：702、モード２：1404、モード３：2808）

K_{fc}　：f_cに対応するキャリア番号（ただし、キャリア番号は、連結送信の場合を含め、送信波全体の周波数軸上左端のキャリア番号を０とし、送信波全体で連続した番号を用いて表す）

$W_{k,b}$　：別表第十四号に示すW_iの値のうちＯＦＤＭフレームｂのキャリア番号ｋに対応する値